

囃子

能管(笛)、小鼓、大鼓、太鼓の四つで構成され、四拍子と呼ばれています。能の囃子は、三つの打楽器に加え、旋律楽器の能管もリズム主体の演奏を行います。単なる伴奏ではなく、役者と対等にわたりあい、緊張感のある舞台を作りあげる重要な音楽です。



ふえ 笛



おおつづみ 大鼓



こつづみ 小鼓



たいこ 太鼓

能面

能面にはとても重要な働きがあります。種類は約60種類と言われ、この世の存在ではない鬼神や怨霊などの役柄の面の他、さまざまな年齢層の女性の面が多くありますが、これは男性の役者が、女性の年齢に応じた美しさを演じるためだと考えられています。



こもて 小面



ふかい 深井



みかづき 三日月



しかみ 顰



しょうじょう 猩々



はんにゃ 般若

扇

扇には二つの種類があります。「鎮め扇」は通常使うものです。「中啓」は親骨が要よりも外側に反った形をしており、折りたたんだ時上端が広がります。扇には様々な装飾が描かれています。



かみおうち 神扇



しゅう 修羅扇



かつら 鬘扇



きょうじゅう 狂女扇



おに 鬼扇

能装束

能装束は能の精神性と内容を視覚的に表現しています。絹を主な素材とし、多くの装束は重厚な仕立てになっています。精巧で複雑な文様や色調があり、多様性があります。



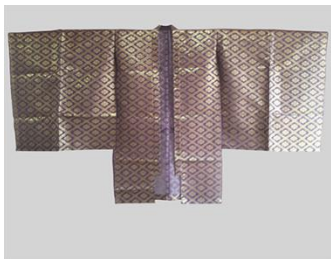
からおり 唐織



あつた 厚板



かりぐめ 狩衣



ちょうけん 長絹

鶴亀座 台湾 能楽紹介公演



2017年 3月 15日 (水)

国立台湾戯曲学院



NPO法人 能楽普及集団

鶴亀座

のうがく

能楽とは

笛や鼓による伴奏と、地謡と呼ばれるコーラス隊の謡（歌）に合わせて、舞台上の役者が舞いながら古典

文学を題材とした物語を進めて行く演劇です。役者は装束を着けて、主役は主に能面をかけています。

のうがく やく ねんまゑ にほん つく せかいむけいぶんかいさん
能楽は、約6 5 0年前に日本で創られ、ユネスコの世界無形文化遺産となっています。

素謡

のういっきよく だいほん はやし まい い うた てぜんいん ぶたいじょう せいざ うた
能一曲の台本を、囃子や舞は入れずに、謡い手全員が舞台上で正座して謡う

かたち うたい ものがたり ふし おんてい ひょうし
形をとります。謡は、物語のセリフに節（音程）と拍子（リズム）をつけて

うた かた
謡ったり、語ったりします。

すうたい

仕舞

のういっきよく み ば ぶぶん のうめん のうしょうぞく はやし ともな ま て すうにん
能一曲の見せ場となる部分を、能面、能装束、囃子を伴わずに、舞い手と数人

じうたい おこな もんつ ちやくよう
の地謡のみで行います。紋付きと、はかまを着用します。

まいばやし

舞囃子

のういっきよく み ば ぶぶん ま て じうたい はやしかた ひろう のうめん
能一曲の見せ場となる部分を、舞い手、地謡、囃子方が披露するもので、能面、

のうしょうぞく つ もんつ ちやくよう
能装束は付けずに紋付きと、はかまを着用します。

つけしゅうげん

附祝言

いちにち こうえん お さい うたい うた ひ し
一日の公演を終える際に、おめでたい謡を謡うことでその日の締めくくりとするもの。

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

本日の番組

あいさつ

れんぎん しかいなみ
連吟……………**四海波**

かいせつ のう
解説……………**能について**

しまい ふなべんけい てん こ
仕舞……………**船弁慶**り、**天鼓**

す うたい どうせん
素謡……………**唐船**

まいばやし はごろも
舞囃子 ……**羽衣**

たいけん おもて
体験……………**面**

かんしゅう つち ぐ も
親賞……………**土蜘蛛**

つけしゅうげん しょうじょう
附祝言 ……**猩々**

きょくもく しょうかい

曲目の紹介(あらすじ)

ふなべんけい

船弁慶

へいけつとう こうせき みなもとよしつね あに みなもとよりとも ぎわく も かまくらかた お み
平家追討に功績をあげた源義経でしたが、兄の源頼朝に疑惑を持たれ、鎌倉方から追われる身となり

ます。義経は、弁慶や忠実な従者ととともに西国へ逃れようと、摂津の国（兵庫県）大物の浦へ到着しま

す。義経の愛人である静も一行に伴って同道していましたが、女の身で困難な道のりをこれ以上進むこ

とは難しく、都に戻ることになりました。別れの宴の席で、静は舞を舞い、義経の未来を祈り、再会を

願いながら涙にくれて見送ります。静との別れを惜しみ、出発をためらう義経に、弁慶は強引に船出を命

じます。すると、船が海上に出るや否や、突然暴風に見舞われ、波の上に、壇ノ浦（山口県）で滅亡した平家

一門の総大将であった平知盛の亡霊が現れました。知盛の怨霊は、是が非でも義経を海底に沈めよう

と、長刀を振りかざして襲い掛かります。弁慶は、数珠をもみ、必死に五大尊明王に祈祷します。その祈り

の力によって、怨霊は調伏されて彼方の沖に消え、白波ばかりが残りました。

てん こ

天鼓

ちゅうごく ごかん じだい おうはく おうぼ ふうふ こ てん こ ふしぎ お た ははおや てん つづみ
中国、後漢の時代です。王伯・王母の夫婦の子ども天鼓は、不思議な生い立ちでした。母親が、天から鼓が

降って胎内に宿るといふ夢をみて授かりました。妙なる音色をたてる鼓が天から降ってきました。天鼓は、

この鼓とともに育ちます。その鼓の音は、大変に素晴らしく、人々を感動させました。そのうわさが皇帝

の耳に入り、鼓を召し出すようとの命令が出されました。天鼓は、この命令に従わず隠れていましたが、

と捕らえられ湖の呂水に沈められました。鼓は、宮廷に運ばれ多くの楽師が試しに打ちますが全く音を発

しません。皇帝は、天鼓の父親王伯を呼び寄せ、鼓を打たせます。王伯は、わが子への思いを胸に鼓を打つ

と、この世とも思えない音色が鳴り響きました。感動した皇帝は、王伯に褒美を与え、天鼓の冥福を祈るた

めに、亡くなった呂水へ行幸すると、天鼓の霊が現れ、懐かしい鼓を打ち、喜びの舞を舞います。そし

て、夜が明けるころに消えていくのです。

ちゅうごく もろこし

中国（唐土）の明州の津に住んでいた祖慶官人という者が、ある年、唐土と日本との間に争いがあつた

時に、捕らえられて日本に留められます。そして、九州福岡の箱崎で武家の使用人となりました。牛飼

いをして過ごすうちに2人の子をもうけ、13年が経ちました。一方、唐土に残された2人の子は、父が生きて

いることを知り、どうしても会って帰国させるために、父との交換用の宝を携えて箱崎にやってきました。

祖慶は、夢かと喜び、箱崎の主に許しを得て帰国しようとしたのですが、日本でもうけた2人の子と一緒に

連れて行ってほしいと泣き悲しみます。それに対して、唐土の2人の子は早く帰国しようと迫るので、板ば

さみになった祖慶は海に身を投げて死んでしまおうとしました。その親の心哀れさに打たれ、箱崎の主

は、祖慶が日本の2人の子を連れて帰国することを許します。親子4人は喜び、船に乗り唐土をめざしまし

た。

はごろも

羽衣

ある春の日、漁師が三保（静岡県）の松原を通りかかると、松の木に世にも見事な羽衣が掛っています。持ち

帰って家の宝にしようと思いましたが、そこへ天女が現れ、それは私のものだから返して欲しいと言

います。漁師は、はじめこそこぼんでいましたが、その羽衣がないと天に帰れないとなげく天女の姿に打た

れ、衣を返すことにしました。羽衣を返す代わりに、天人の舞を見せてほしいと言うと、天女は喜んで引

き受けます。衣を受けとって、天地を祝福するような美しい舞を舞うと、天女は月の都に帰って行

ちゅうごく もろこし

重い病に悩む武將の源頼光のもとに、侍女（世話する女）の胡蝶が薬を届けた。その夜、伏せる頼光の

枕辺に、見知らぬ僧が訪ねます。頼光の容態をうかがう僧はその正体を怪しまれた途端に千筋の糸を投げ

かけ、化け物（土蜘蛛の精）の本性を現します。頼光も枕元にあつた刀を手にとって斬りつけますが、

化け物は姿を消してしまいます。そこに駆けつけた独武者は、頼光から話のいきさつを聞いて、残され

た血の跡をたどって、化け物退治に向かうこととなります。

^[1] 能楽は、約6 5 0年前に日本で創られ、ユネスコの世界無形文化遺産となっています

^[2] 能楽は、約6 5 0年前に日本で創られ、ユネスコの世界無形文化遺産となっています